

( 電子メール施行 )  
農技 第 1028 号  
平成27年4月15日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報 第2号を下記のとおり発表します。  
キャベツ圃場で、菌核病の多発生を確認しています。圃場での発生状況を観察し、早期に防除するようご指導願います。

## 平成27年度 病害虫発生予察注意報 第2号

### キャベツ菌核病の防除対策について

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 対象作物      | キャベツ        |
| 2 病害虫名      | 菌核病         |
| 3 発生地域      | 神戸、東播磨、淡路地域 |
| 4 発生程度 (時期) | 多い          |

### 5 発生状況について

- (1) 神戸、東播磨、淡路地域で、キャベツ菌核病の発生が多く確認されている。
- (2) 3月中旬の巡回調査において、発生圃場率 20% (平年値 28.2%) と平年並の発生であるが、例年より早い発生で、今後の気象条件によっては、発生が助長されると予想していたことから、平成 26 年度病害虫発生予察技術情報第 5 号 (平成 27 年 3 月 16 日付 参照) で注意喚起した。
- (3) 4月10日、13日に実施した神戸、東播磨、淡路地域における定点調査では、発生圃場率 90% (平年値 20%)、発病株率 11.6% (平年値 1.0%) と平年を大きく上回っており、過去 10 年間で最も多い発生となっている。
- (4) 同日、定点周辺の現地確認調査 (16 地点) においても、結球中期以降の作型での発生圃場率 62.5%、発病株率 2.1% と多い発生となっている。罹病株の発生が確認された圃場では、結球上部からの感染 (図 1 参照) が多く見られ、孢子による大量感染が懸念される。
- (5) 圃場内に罹病株が認められた場合、今後の気象状況 (気温上昇・降雨等) によって発病が増加し、減収につながることを懸念される。

### 6 発生予想について

発生圃場率及び発病株率が平年を大きく上回っていることや、向こう 1 ヶ月予報でも、気温の上昇並びに降水量が多いと予想されていることから、今後収穫を迎える作型で被害が大きくなるおそれがある。

### 7 本病の特徴について

- (1) 本病は、主に結球開始期以降に発生する。はじめは外葉の基部、地面に接する部分に淡褐色水浸状の病斑を形成する。病斑は次第に拡大し、軟化・腐敗し、病勢が進むと結球部全体が腐敗する。
- (2) 本病原菌の伝染経路は、①菌核から直接感染する場合と、②菌核よりキノコ状の子のう盤 (図 2 参照) を形成し、そこに形成された孢子が拡散することでまん延する場合がある。\* (添ページ)
- (3) 本病原菌は、レタス、キュウリ、トマト、イチゴなど多くの種類 (64 科 361 種) の作物に感染することから菌核病の発病適温 (15℃~20℃) となる 4 月下旬から 5 月は特に注意が必要である。

## 8 防除対策について

- (1) 発病株は、菌核を形成しないうちに抜き取り、ほ場外で処分すること。菌核は、被害残渣とともに土壤中に残存して、次作の伝染源になることからほ場に残さないようにすること。
- (2) 結球開始から予防的に薬剤散布を実施すること。なお、薬剤は初発部位である株元に十分かかるように散布すること。
- (3) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、使用回数、収穫前日数をよく確認し、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

写真

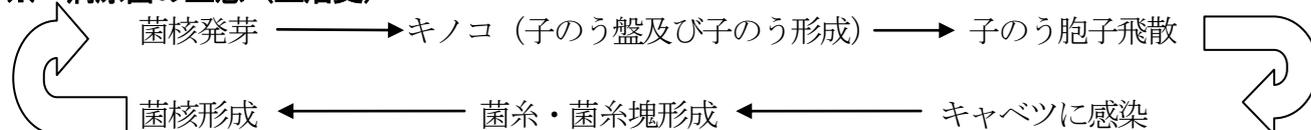


図1 結球上部からの感染した株。



図2 キャベツ圃場の土壌表面に形成されたキノコ（子のう盤）

### ※ 病原菌の生態（生活史）



\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載  
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222